1994. 10. 1

京大広報

No. 472

京都大学広報委員会

改修中の大学本館

目　　次

＜大学の動き＞
平成6年度国立学校施設整備事業の決定……839
＜紹介＞
経済研究所・資産経済研究部門……839
＜保健コーナー＞
健康診断に携わって……840
平成6年度附属図書館展示会
「吉田松陰とその同志」の開催……841
＜コラム＞
切れすぎるナイフ
横山　陽……842
訃報……842
＜随想＞
のぞみ号の中で
名誉教授　川野　豊……843

＜大学の動き＞

平成６年度国立学校施設整備事業の決定

平成６年度国立学校施設整備事業のうち，本学関係分は次表のとおりである。

部局名	構造・階	面積	備考
文学部校舎	SR2-2	2,000㎡	SR は鉄骨鉄筋コンクリート構造 2-2 は地上２階地下２階
工学部研究実験棟	SR8-1	4,280㎡	
人間・環境学研究科校舎（仕上１）	SR5-1	10,790㎡	
病院基幹整備		一式	

注）工学部研究実験棟については，京都市の許可がおり次第着工の予定である。

上記事業の実施に際し，工事周辺部におけるご協力をお願いします。

＜紹介＞

経済研究所・資産経済研究部門

経済研究所には従来，数量産業分析，経済計画，資源環境，比較経済の４研究部門と，客員の現代経済分析と国際政治経済（外国人）の研究部門があり，13の研究領域にまたがる研究が行われて来た。このたび，機構改革により，経済計画部門内の研究領域の一部を加えて新たに，資産経済研究部門が発足し，客員研究部門を除いて，５研究部門，15研究領域から成る研究組織に改められることになった。

資産経済研究部門は実物資産，金融資産，公共資産の３研究領域から成る。発足間もない状況で，研究活動はまだ始まったばかりであるが，この研究部門の目指す研究対象と研究方式について，その特徴を説明したい。

資産経済研究部門の研究対象は，フローとしての経済活動を支えるさまざまな資産（ストック）の市場均衡の成り立ち，その蓄積のメカニズム，そしてフロー面での経済活動との相互連関が主なものである。フローとしての経済活動に寄与するストックとして資産を考えると，それぞれの資産が経済活動に貢献する際に提供するサーヴィスから区別することが出来る。資本設備，土地，人的資本，金融資産といった資産は生産活動に対して直接，間接にさまざまなサーヴィスを提供しており，これら資産の中には，そのサーヴィスが資産そのものと区別されて市場取引が行われるものもあるが，一方，資産の所有とサーヴィスの享受が不可分なものもある。たとえば，多くの機械設備はそれ自体を購入することも出来るし，リース会社から借り受けてそのサーヴィスのみを購入することも可能である。他方，人的資本とそれが提供する労働サーヴィスを考えると，そのサーヴィスの売買は可能であるが人的資本は個人に固有のもので市場性はない。

さらに，道路や橋といった公共資本はその便益が広く国民全体に及ぶため，そのサーヴィスは，市場メカニズムを通じて供給されず，このような施設への投資の分析には，民間資本設備とは異なった手法や研究枠組が必要となる。

このように多種多様な資産とそれらが提供するサーヴィスの市場均衡の分析や蓄積のメカニズムを研究するには数多くの高度の専門性が要求される。金融・財務理論，国際金融論，公共政策，マクロ経済学，労働経済，都市経済学，などがその主なものである。資産経済研究部門は，これらの多様な専門領域の中で行われていた個別資産の分析を超えて，多様な専門性を糾合し，研究部門内はもとより，研究所内の他の研究部門や外部研究機関とも協力して，特定の研究課題に対して総合性の高い共同研究を推進することにある。

1980年代後半にみられた，急激な資産価格の変動は，資産価格の変化がフロー面での景気循環を大きく増幅し，それが資産の蓄積経路を大きく変える，といった資産市場と生産・消費活動の相互連関の重要性を改めて示すものであった。

発達した市場を持つ資産の間の連関の強さも我々の記憶に新しい。株式市場と土地価格の連動・変動を想い起こせばその重要性を改めて記すまでもないであろう。外国為替市場では，資産としての各国通貨が売買されるが，そこで決定される為替レートは内外商品の相対価格に直接影響を与え，やがてその効果は貿易収支や投資・貯蓄バランスに波及する。このような連関は資産の蓄積過程にも重要な役割を演ずる。公的年金の問題を考える時には，生命保険業の規制緩和や，信託経営の産業組織学的分析が不可欠になるし，社会資本の充実を政策課題として分析する際に都市計画や企業立地への影響を無視した研究は許されない。

資産経済研究部門が目指すのは，このような時代の政策課題に対応した，高度でしかも多様な専門性を総合する具体的研究課題の達成である。経済学の独立した学としては樹立されていない資産経済のための研究組織を敢えて設ける理由もここにあるといえる。

現在，本研究部門ではこのような目標に向けたいくつかのプロジェクトが進行中である。簡単な紹介を添えて結びとしたい。

(1) 日本の高い貯蓄率は，各国の羨望（場合によっては批判）を集めている。しかし，その原因は未だパズルとして残っている。当研究部門の「貯蓄」プロジェクトでは，最近多くの研究者が関心を寄せている遺産を通した資本蓄積の重要性を検証するために，遺産による世代間移転を明示的に考慮したマクロ経済モデルのシュミレーション分析を行っている。

(2) 「資本所得課税」プロジェクトでは現在，各国の資本所得税制の違いが，経済成長率格差や所得格差の原因となっているかどうかを研究している。

（経済研究所）

＜保健コーナー＞

健康診断に携わって

毎年春に行われる定期健康診断を受ける立場から，自分が健康診断に直接携わる立場になり，その対象人員の多さ，時間と手間がいかにかゝるかということを知って驚いています。

結核はもう過去の病気という誤った認識があるのか，胸部X線検査を省略される人がかなりおられますが，いまでも全国で毎年5万人以上の新患の登録数があり，人口10万あたり41.9の罹患率であり，年間に3,000人の死亡者をみる罹患率，死亡者数ともに最大の感染症です。

本学でも表に示したように毎年新しく発病した人が発見されています。平成4年には，ある学部で一挙に7名も発見され，関係のある人たち全員のツベルクリン検査を行いました。幸いそれ以上の感染者は発見されず胸をなでおろしました。

結核患者の多かった時代には，自然感染で免疫を獲得していた人達も，患者の減少と共に免疫が得られず，現在では一人発生すると集団発生につながる可能性があり，やはりおろそかに扱えない慢性感染症なのです。

また年齢別では，高齢者の罹患率が高くなっています。予防接種もれ，定期検診の未受検，治療の不徹底など，医療従事者として自覚する必要性を痛感しています。

胸部レントゲン撮影は，肺結核の早期発見に重要な意味をもつのみでなく，肺結核以外の肺疾患，さらに心臓の異常を見つけるという目的ももっています。本学でも肺梗塞，肺腫瘍，気胸，胸膜炎，マイコプラズマ肺炎，気管支拡張症などが発見されています。

あなたは，毎年の健康診断を受けておられますか？

個人の健康を守ることは勿論ですが，集団生活をする一員としての責任を自覚し，他人の健康に支障をあたえないためにも，年一回の健康診断は是非受けるように心がけて下さい。「要再検」と連絡があっても必ずしも病気があるというのではなく，一時的な異常なのか，条件を変えて再検査をすることが必要というくらいの意味です。万が一異常があったとしても，早期に治療をすれば治ると気やすく考えることです。前々回の保健コーナーでも指摘されているように，検診後の事後措置が不十分で，再検査の受検率があまりよくない

ことが気がかりです。せっかくの健康診断ですから最後まで結果を知るように努めて欲しいものです。

どうぞ気軽に保健診療所を利用して下さい。

毎年新たに発見される結核患者数

年度	職員	学生	年度	職員	学生	年度	職員	学生	年度	職員	学生
昭和28		13	昭和39		5	昭和50		11	昭和61	2	1
29		14	40		20	51		5	62	1	3
30		5	41	1	17	52		8	63	1	
31		5	42		9	53	3	7	平成元	1	
32	1	9	43		8	54	1	7	2		2
33		6	44	1	10	55		4	3		7
34	1	4	45		20	56	4	4	4	1	12
35		3	46		9	57	2	5	5		7
36	3	10	47	3	5	58	3	5	6		1
37	5	8	48	1	4	59	2	9			
38	1	5	49	3	11	60	1	6			

（保健診療所
山本カツ子）

平成６年度附属図書館展示会「吉田松陰とその同志」の開催

本館では，平成６年度展示会を９月26日（月）から開催しています。

この展示会では，本館所蔵の維新特別資料文庫から，吉田松陰を中心とした幕末の勤皇の志士たちの事蹟を，遺墨・遺品等から見ることができます。

また，電子図書館（Ariadne）は，展示物やその解説データを，ハイパーテキストとして電子的に蓄積し，これをワークステーションやハイビジョンで見ることのできる機能を備えております。今回の展示会に併せて，この電子図書館を利用して，自分の興味に合わせた仮想展示会を体験する公開実験も行っております。

同時に，文学部博物館でも秋季企画展「尊攘派の群像」が開催されており，明治維新に向けて活動した人物群像や維新史を検証できる資料が展示されています。併せて観覧いただくと興味深いことでしょう。

なお，この期間に下記講演会も開催しますので，ご来聴下さい。

展示会：「吉田松陰とその同志」

会　期：平成６年９月26日（月）～10月28日（金）（日曜・祝日を除く）
　　午前10時～午後５時（入館は午後４時30分まで）

場　所：附属図書館展示ホール（３階）

電子図書館（Ariadne）公開実験

会　期：同上

場　所：附属図書館遡及入力準備室（４階）

講演会：「公武合体」と尊皇攘夷運動

講　師：佐々木　克教授（人文科学研究所）

日　時：平成６年10月14日（金）午後３時～４時30分

会　場：附属図書館 AV ホール（３階）

（附属図書館）